

三菱自動車からのお知らせ

平成24年度(2012年度)上半期のご報告

2012年4月1日~2012年9月30日

ルート
Route



Drive@earth



社長インタビュー

「円高など事業環境の変化に対応し、新興国市場の成長を取り込むため、生産体制を構築し、販売拡大を目指します。」



OSAMU MASUKO

Question

1

2012年度上半期*の
事業環境と対応は？

当社を含め国内自動車メーカーは、歴史的円高による収益力悪化や輸出競争力の低下に加え、欧州債務問題の深刻化で世界経済の減速感が強まるなど、引き続き厳しい事業環

境に置かれました。

当社にはこれに対処するため、成長が期待される新興国市場での生産体制を構築することで、販売拡大や生産部品の現地調達率向上によるコスト低減に、スピード感を持って取り組んできました。

*: 第2四半期累計期間(2012年4月1日から9月30日まで)

Question

2

2012年度上半期の業績は？
下半期の目標は？

厳しい事業環境ではありましたが、タイなどアセアン地域での販売が大きく伸びたことや、資材費等コスト低減効果などにより、ほぼ計画線上の損益を達成することができました。これまでの取り組みが奏功したものと考えています。

しかしながら、配当につきましては、株主の皆様には大変申し訳ありませんが、当上半期も見送らせて頂きました。

下半期につきましては、新型車『ミラージュ』『アウトランダー』のグローバル展開をさらに進め、前年度比での販売台数増、増収、営業増益を目指し取り組んで参ります。また、中期経営計画の業績目標は変更せず、達成を目指します。

Question
3

生産体制の構築の状況は？

新興国においては、生産能力の増強を着実に進めています。タイでは第三工場が稼動し新型『ミラージュ』が4月に生産開始となりましたが、アセアン諸国を中心に販売が好調なことから、さらなる能力増強を行います。中国では広州汽車との新合弁会社で10月から『ASX』（日本名：『RVR』）の生産が始まりました。この他に、

ロシアやインドネシア、インドでも次々と現地生産が始まっています。（※3-4ページご参照）

一方で、先進国においては、生産能力の適正化に取り組んでいます。オランダの生産拠点「NedCar」については、オランダ・VDL社と株式譲渡契約を締結済みで、12月までに生産を終了する予定です。



新型「ミラージュ」

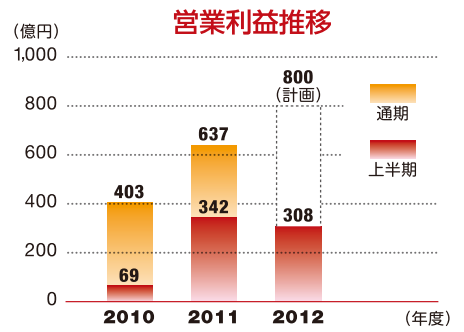
Question
4

下半期の新規投入車種は？

2013年1月に電気自動車（EV）派生型のプラグインハイブリッドEVシステムを搭載した『アウトランダーPHEV』を発売予定です。SUV（スポーツユーティリティークール）としては世界初のプラグインハイブリッド車です。同時期に『MINICAB-MiEV』のトラックタイプとなる『MINICAB-MiEV TRUCK』を発売予定です。これら電動システム搭載車2台の他に、『デリカD:5』のクリーンディーゼルエンジン搭載車を12月に発表予定です。環境対応車のラインナップがさらに強化されますのでご期待下さい。



新型「アウトランダー」



2012年12月
取締役社長

益子 修

三菱自動車企業理念

大切なお客様と社会のために、走る喜びと確かな安心を、
こだわりをもって、提供し続けます。

Special Feature 1

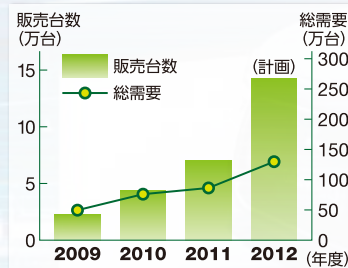
THAILAND | タイ

第3工場が稼動し2012年4月より『ミラーージュ』の生産を開始、世界各国への供給体制が整いました。主力車種の『トライトン』『パジェロスポーツ』と合わせ、輸出は前年度比6割増の24万台を計画しています。総需要が120万台を超えると見込まれるタイ国内での販売も、前年度から倍増となる15万台とする計画です。



『ミラーージュ』

販売台数



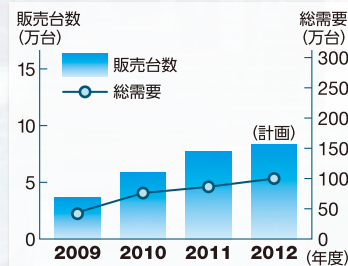
INDONESIA | インドネシア

新工場で2012年7月より『アウトランダースポーツ』(日本名:『RVR』)の現地生産を開始しました。タイから供給される新型『ミラーージュ』とともに販売拡大を図ります。総需要が100万台を超えると見込まれるインドネシア国内での販売は、今年度は9万台を目指します。



『アウトランダースポーツ』

販売台数



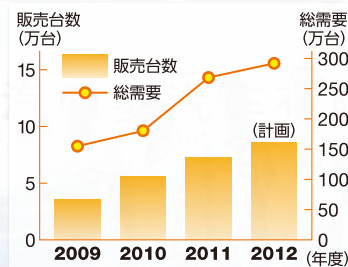
RUSSIA | ロシア

総需要が「リーマンショック」前のレベルまで回復しているロシアでは、2012年11月より現地生産する新型『アウトランダー』を中心に販売拡大し、今年度9万台の販売を目指します。



『アウトランダー』

販売台数



新興国での販売拡大へ、進む生産体制の構築

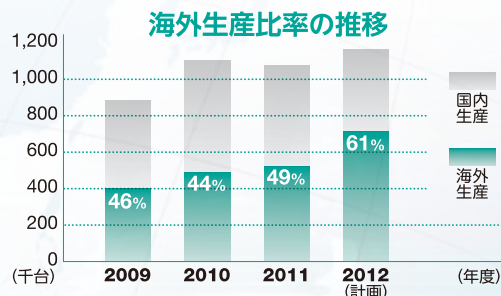
歴史的円高に代表される厳しい事業環境下は、
今後も続くとみられています。

当社はこれに対応しさらなる成長を図るべく、
為替変動に影響されにくい生産体制の構築や、
需要が伸びている新興国での現地生産強化・販売拡大に、
スピード感を持って取り組んでいます。

WORLD WIDE | 海外生産比率

生産体制の構築により今年度の海外生産比率は全体の6割を超え、当社として初めて海外生産が国内生産を上回る計画です。

また、新興国の生産台数が増加することにより、今年度における全生産台数の5割以上が新興国での生産となる計画です。



CHINA | 中国

完成車事業拠点

広州自動車との新合弁会社「广汽三菱自動車有限公司」を2012年9月に設立し、同社で生産した『ASX』(日本名:『RVR』)を12月から販売します。2013年度半ばには『パジェロスポーツ』も投入するなど、中長期的な成長に向けて事業体制を強化します。



「ASX」



Special Feature 2

OUTLANDER

プレミアムツーリングSUVとして新型『アウトランダー』を2012年10月に日本国内で発売しました。先進安全装備「e-Assist」・高性能4WD等による優れた安全性能や、低燃費化技術・軽量化等による高い環境性能の実現、そして外観・内装・走りなど全体的な質感の向上を目指し、三菱自動車のクルマづくりの技術・ノウハウを結集しました。

2005年10月発売の先代モデルは約66万台の世界販売を達成しました。新型モデルも既に7月にロシア、9月に欧州で販売を開始し、ロシアでは受注台数が1万2千台（10月末現在）を超えるなど好調なスタートを切っています。日本での発売以降は、豪州、中国等へグローバルに展開を予定しています。



MIRAGE

新型『ミラージュ』は、「低燃費」「低価格」「コンパクト（扱いやすさ）」をキーワードとし、「先進国における環境対応車」と「新興国におけるエントリーカー」というニーズを両立させたグローバルコンパクトカーです。2012年3月から生産拠点のあるタイで販売を始め、4万2千台（10月末現在）を超える受注となっているほか、日本でも1万2千台（同）を受注するなど各国でご好評を頂いています。9月にはインドネシアで、11月からはフィリピン、マレーシアで販売を開始し、その後、欧州、豪州に順次展開します。



2012年7月にタイのラムチャバン港で開かれた日本向け出荷セレモニー。

期待の新車・新技術

OUTLANDER PHEV

PLUG-IN HYBRID EV

独自に開発したEV派生型の「プラグインハイブリッドEVシステム」を搭載。EVの特長である環境性能・静粛性・高い動力性能と、SUVならではのユーティリティや4WDによる走行性能を高次元で両立させ、エンジン車と同等の航続距離を持った、SUVタイプとしては世界初のプラグインハイブリッド車です。

「プラグインハイブリッドEVシステム」は、世界に先駆けて市場投入した『i-MiEV(アイ・ミーブ)』から得られたEV技術と、当社がこれまでに培ってきたエンジン技術を融合。外部からの充電(自宅や外出先など)による電力や、減速時のエネルギー回収によってガソリンを節約した走行ができ、従来のエンジン車を大きく凌駕する複合燃料消費率*1 61km/L以上(JC08モード)と、エンジン車同等の航続可能距離880km以上(JC08モード)を目標としています。

なお『アウトランダーPHEV』は、2013年1月から国内市場に投入し、順次、欧州や北米などへの世界展開を進める予定です。

*1: 複合燃料消費率: プラグイン走行(外部充電による電力を用いた走行)時の燃料消費率「プラグイン燃料消費率」と、ハイブリッド走行時の燃料消費率「ハイブリッド燃料消費率」とを複合した代表燃費値。



『アウトランダー
PHEV』

自宅で楽々チャージ

自宅のコンセントや、外出先での充電が可能。
ガソリン代を節約することができます。



便利で快適なアウトドアライフ

大容量バッテリーをAC電源として使用し、
キャンプや趣味も楽しめます。



パイクスピーク・ヒルクライム参戦のご報告

2012年8月に米国コロラド州で開催されたモータースポーツイベント「パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム2012」にEV2台体制で参戦し、『i-MiEV Evolution』（レース専用車）がEVクラスで2位、『Mitsubishi i』（北米向け市販車、日本名『i-MiEV』）が6位にそれぞれ入賞しました。EVが

ガソリン車と同等な走行性能であることや、厳しい環境下での耐久性の高さを実証しました。



『i-MiEV Evolution』



i-MiEVシリーズ第三弾が近く登場

2013年1月に軽トラックEV『MINICAB-MiEV TRUCK』を発売予定です。新世代電気自動車MiEVシリーズの第3弾で、軽トラック『ミニキャブトラック』をベースに開発。MiEVシリーズで培ったEV技術とノウハウを活用し、EVならではの高い環境性能と、軽トラックとして要求される積載性、経済性の

両立を実現しています。MiEVシリーズ全体での累計出荷台数は、これまでに3万台を超えています。



『MINICAB-MiEV TRUCK』



Factory Tour

工場見学会のお知らせ

下記のとおり工場見学会を愛知県岡崎市の岡崎工場で開催いたします。
皆様のご応募をお待ちしております。

見学会概要

見学会場所: 技術センター及び 名古屋製作所 岡崎工場 (愛知県岡崎市)

開催日時: ①2013年3月15日(金)13:00~17:30頃

②2013年3月19日(火)13:00~17:30頃

③2013年3月26日(火)13:00~17:30頃

集合・解散: JR三河安城駅新幹線北口(バスにて工場まで送迎)、または
名鉄新安城駅北口(バスにて工場まで送迎)

対象者: 2012年9月末時点当社株式を所有の方(同伴者1名様まで可)

募集人数: 各100名様(含: 同伴者)、計300名様(含: 同伴者)

参加費: 無料(集合・解散場所までの往復交通費や宿泊費等は各自のご負担とさせていただきます。)



応募要領

応募方法: 右記のとおり郵便はがきに必要な事項を
ご記入のうえ、ご応募ください。なお、
同一株主様の複数応募は無効といたし
ますのでご注意ください。

応募締切日: 2013年1月7日(月)(必着)

当選発表: 厳正な抽選のうえ、当選発表につきま
しては当選者へのご連絡(2月中旬頃
予定)をもって代えさせていただきます。
その際、当日の運営等詳細をあわせて
ご連絡いたします。

※ご応募により当社が取得する個人情報、本見学会を
実施するうえで必要な限りにおいてのみ使用いたします。

※ご見学時は、バスの乗り降りや階段の昇り降りがあり、
1時間程度工場内をお歩きいただくこともございますので
ご了承ください。なお、ご高齢の方及び小学生以下の方の
ご参加の際には、同伴者をお願いする場合があります。

郵便はがき

50円 切手	1088410
三菱自動車工業(株) 総務部 工場見学会係行	
東京都港区芝5丁目33番8号	

あて名面

- ①希望参加日(上記開催日のうち、
いずれか1日をお選びください。)
- ②希望集合場所(JR三河安城駅
または名鉄新安城駅)
- ③郵便番号
- ④住所
- ⑤電話番号
- ⑥氏名
(ふりがなをご記入ください。)
- ⑦年齢
- ⑧同伴者がいらっしゃる場合は、
同伴者の氏名、住所、年齢を
お願いします。

裏面

お問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社内 三菱自動車 工場見学会係
電話番号: **0120-313-282** 9:00~17:00(土・日、祝祭日を除く)
年末年始休業日: 12月29日(土)~1月3日(木)

2012年度(上半期)の決算の概要

厳しい事業環境ながら新興国での販売伸張などで損益は計画線以上に

当上半期の売上高は、車種構成差や為替の円高影響等により前年同期比(以下同様)で475億円、5%の減収となりました。営業利益は、資材費等コスト低減があったものの、為替の円高影響や販売費の増加などにより、34億円の減益となりました。経常利益、当期利益はそれぞれ83億円、195億円の増益となりました。

地域別の販売台数実績ですが、まず日本ではマイナス9千台、12%の減少となりました。8月に投入した新型『ミラーージュ』は計画を上回ったものの、他のモデルが振るいませんでした。

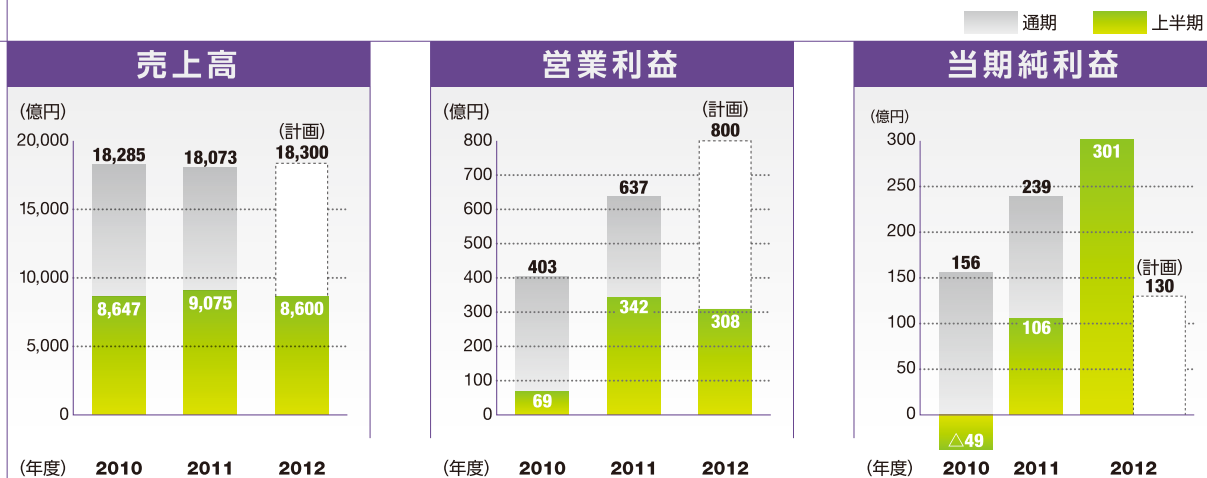
北米ですが、米国では『アウトランダースポーツ』が前年を上回ったものの、『エクリプス』等の生産を終了したことに伴い販売台数が減少したこ

となどから、1万8千台、29%の減少となりました。

欧州では、2万7千台、23%の減少となりました。ロシアで7月に発売した新型『アウトランダー』の投入効果もあり前年を上回ったものの、西欧などで大幅に減少となったことによるものです。

アジア・その他地域は、アセアンが牽引し1万3千台、5%の増加となりました。なかでもタイでは好調な『トライトン』、『パジェロスポーツ』などが引き続き牽引し、さらに今年3月に投入した『ミラーージュ』も加わり、69%増加の6万3千台となりました。

豪州・NZでは、前年同期実績をやや下回りました。中南米では、前年同期実績をやや上回り、中東・アフリカでは、13%の減少となりました。



*当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

新型車のグローバル展開を進め、販売拡大を目指す

2012年度下半期の販売台数計画は、新型『ミラージュ』『アウトランダー』のグローバル展開などにより、上半期実績の47万8千台に対し、56万6千台の計画としました。2012年度通期では、前年度比4万3千台増、率にして4%増加の104万4千台となります。

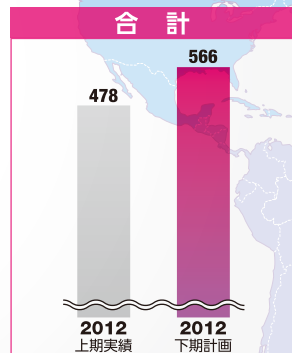
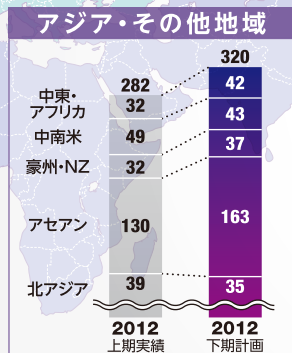
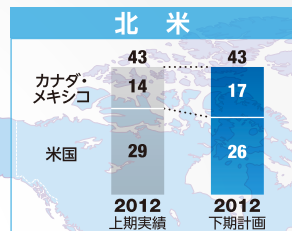
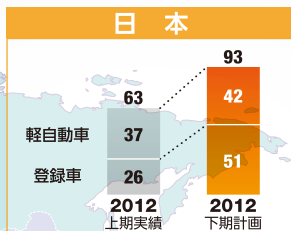
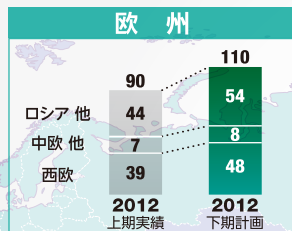
地域別では、中国において販売計画を下方修正しましたが、日本、ロシアを含む欧州、アジアその他の地域で台数増を図ります。アジア・その他地域では、好調なアセアンを中心に台数増

を図り、上期実績を上回る32万台を計画しております。

これら販売台数計画をベースに、通期目標は、売上高は前年度比1%増の1兆8,300億円、営業利益は同26%増の800億円としております。

今後も様々な環境変化が生じる可能性があります。都度新たな打ち手で対応し、スピードを上げて諸施策を実行することで、中期経営計画の業績目標を変えることなく、その達成を目指してまいります。

地域別販売台数 (単位:千台/年度)



Consolidated Financial Statements

連結財務諸表（要旨）

■ 連結貸借対照表

（百万円）

科 目	前年度末	第2四半期	科 目	前年度末	第2四半期
	(平成24年3月31日現在)	連結会計期間末 (平成24年9月30日現在)		(平成24年3月31日現在)	連結会計期間末 (平成24年9月30日現在)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	311,631	314,941	支払手形及び買掛金	317,355	281,213
受取手形及び売掛金	146,182	112,541	短期借入金	186,690	144,752
商品及び製品	118,788	124,746	その他	199,411	199,689
仕掛品	20,088	38,345	流動負債合計	703,457	625,654
原材料及び貯蔵品	48,586	32,802	固定負債		
その他	121,161	91,651	長期借入金	161,390	170,740
貸倒引当金	△7,263	△5,859	その他	190,838	188,759
流動資産合計	759,175	709,170	固定負債合計	352,228	359,500
固定資産			負債合計	1,055,686	985,155
有形固定資産	376,736	367,708	(純資産の部)		
無形固定資産	11,669	11,186	株主資本		
投資その他の資産	173,724	169,359	資本金	657,355	657,355
固定資産合計	562,130	548,255	資本剰余金	432,666	432,666
			利益剰余金	△726,028	△695,968
			自己株式	△15	△217
			株主資本合計	363,976	393,835
			その他の包括利益累計額合計	△106,982	△131,045
			少数株主持分	8,626	9,480
			純資産合計	265,620	272,270
資産合計	1,321,306	1,257,425	負債純資産合計	1,321,306	1,257,425

Financial Statements

■ 連結損益計算書

(百万円)

科 目	前上半期	第2四半期連結累計期間
	(平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	(平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)
売上高	907,462	859,960
売上原価	746,379	700,223
売上総利益	161,083	159,736
販売費及び一般管理費	126,863	128,913
営業利益	34,219	30,822
営業外収益	6,911	8,966
営業外費用	17,865	8,140
経常利益	23,265	31,648
特別利益	702	11,674
特別損失	1,675	897
税金等調整前 四半期純利益	22,292	42,426
法人税等合計	10,053	10,655
少数株主損益調整前 四半期純利益	12,238	31,770
少数株主利益	1,649	1,709
四半期純利益	10,589	30,060

経常利益

前年同期比83億円(36%)増加

営業利益308億円に、利息収支や関連会社損益などの営業外損益プラス8億円を加え、316億円となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	前上半期	第2四半期連結累計期間
	(平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	(平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	50,735	53,310
投資活動による キャッシュ・フロー	△35,876	△35,934
財務活動による キャッシュ・フロー	△27,778	△29,910
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△11,210	△4,975
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△24,130	△17,509
現金及び現金同等物の 期首残高	316,464	310,993
非連結子会社との 合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額	—	37
現金及び現金同等物の 四半期末残高	292,334	293,521

純資産

前年度末比66億円増加

第2四半期連結累計期間の純利益が301億円黒字となったにも関わらず、前年度末比66億円増の2,722億円にとどまりました。これは、期末日為替レートの円高影響により、評価・換算差額等が241億円減少したことなどによるものです。

Outline

● 会社の概要 (平成24年9月30日現在)

社名	三菱自動車工業株式会社	発行可能株式総数	9,961,597,000株
本社	〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号 TEL: 03-3456-1111(大代表)	(内訳) 普通株式	9,958,285,000株
設立	昭和45年4月22日	A種優先株式	438,000株
従業員数	連結: 31,414名 単独: 12,936名	B種優先株式	374,000株
資本金	657,355,059,926円	C種優先株式	500,000株
		D種優先株式	500,000株
		E種優先株式	500,000株
		F種優先株式	500,000株
		G種優先株式	500,000株
		発行済株式総数	5,712,890,973株
		(内訳) 普通株式	5,712,466,280株
		A種優先株式	86,100株
		G種優先株式	338,593株
		株主数	普通株式 366,550名
			A種優先株式 10名
			G種優先株式 4名

● 役員 (平成24年9月30日現在)

取締役	西岡 喬*	取締役会長(三菱重工業株式会社相談役)	監査役	村本 修三	監査役(常勤)
	益子 修*	取締役社長		木村 英生	監査役(常勤)
	市川 秀*	取締役副社長		三木 繁光	監査役(株式会社三菱東京UFJ銀行特別顧問)
	春成 敬*	取締役副社長		岡本 行夫	監査役(株式会社岡本アソシエイツ代表取締役)
	上杉 雅勇*	取締役副社長		野島 龍彦	監査役(三菱重工業株式会社取締役常務執行役員)
	相川 哲郎	常務取締役			
	青砥 修一	常務取締役			
	太田 誠一	常務取締役			
	中尾 龍吾	取締役			
	福田滝太郎	取締役			
	佐々木幹夫	取締役(三菱商事株式会社相談役)			
	矢嶋 英敏	取締役(株式会社島津製作所相談役)			

注) 1. *印は当社における代表取締役を示しています。
2. 取締役 佐々木幹夫氏および矢嶋英敏氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
3. 監査役 三木繁光氏、岡本行夫氏および野島龍彦氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

● 株式手続のご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	毎年6月
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
その他の基準日	上記のほか必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
公告の方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 (公告掲載アドレス) http://www.mitsubishi-motors.com/jp/corporate/ir/stockinfo/koukoku.html
1単元の株式数	普通株式は1,000株 優先株式は1株
証券コード	7211
株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
郵便物送付先・電話照会先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL:0120-232-7111(フリーダイヤル)

※住所変更、単元未満株式買取請求、その他各種お手続き等のご請求について

1. 証券会社等の口座をご利用の場合…お取引の証券会社等にお問合せください。
2. 「特別口座」に記録されている場合…三菱UFJ信託銀行株式会社(TEL:0120-232-7111)にお問合せください。

三菱自動車ウェブサイト投資家情報ページ

http://www.mitsubishi-motors.com/publish/ir_jp/index.html

決算情報やプレスリリースなど、IRに関する情報をタイムリーにお届けするIRニュースメールの配信サービスを開始しました。
ぜひご活用ください。



三菱自動車からのお知らせ **Route**

三菱自動車工業株式会社 平成24年度(2012年度)上半期のご報告
広報部 平成24年12月発行 〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号
TEL:03-3456-1111(大代表) <http://www.mitsubishi-motors.com/jp/>



表紙のイラストの中にはクマが隠れています。探してみてくださいね。

表紙：三菱自動車 デザイン部 熊谷周作

